南中学校区小中一貫教育だより

切り拓け たくましく 心ゆたかに

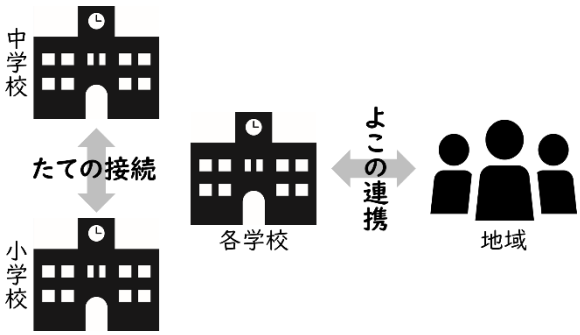
令和6年6月吉日
第1号

小中一貫教育とは？

「小中一貫教育というと、いずれ小中で校舎がひとつになるのですか」

先日、地域の方からこのような質問をいただきました。これまで、この小中一貫だより、地域学校協働本部や学校運営協議会等の地域の方々と学校関係者の会合等で地域のみなさまに小中一貫教育の目標や取組などをご紹介してきたつもりでしたが、小中一貫教育そのものの説明については十分にできていなかったことに気づかせていただき、反省しております。そこで、今回改めて小中一貫教育について、ご紹介をしていきたいと思います。

1　小中一貫教育のめざすもの



最初に、小中一貫教育の目的です。小中一貫教育の目的は、一般的に「**中1ギャップ**＊1」の改善や「**9年間を見通した教育活動の推進**」などが挙げられます。

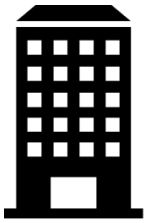
静岡市は「**静岡型小中一貫教育**」と銘打ち、上記に加え、「**つながる力**」（＝社会的な絆）の育成を目指しています。「**つながる力**」とは、積極的な参画意識やコミュニケーション能力、互いに協働して問題解決をする態度といった、人や社会と関わり、高め合うために必要な力を指しています。そして、この「**つながる力**」を育成するため、小学校と中学校の「**たての接続**」と、学校と地域社会との「**よこの連携**」を重視しています。

これらのことから、「**静岡型小中一貫教育**」とは、小学校と中学校、地域の三者が目指す子供像を共有し、手を取り合って教育活動を行っていくための方法である、といえます。

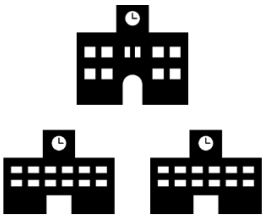
＊1　小学校を卒業して中学校へ進学した際、これまでの小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじめず、授業についていけなくなったり、不登校やいじめが起こったりする現象

2　小中一貫教育の類型

小中一貫教育における学校の形態は、大きく「**義務教育学校**」と「**小中一貫型小学校・中学校**」の2つに分けられます。



義務教育学校
・校舎は1つ
・修業年数は9年
（1年生～9年生）
・校長は1人
・教職員組織は1つ



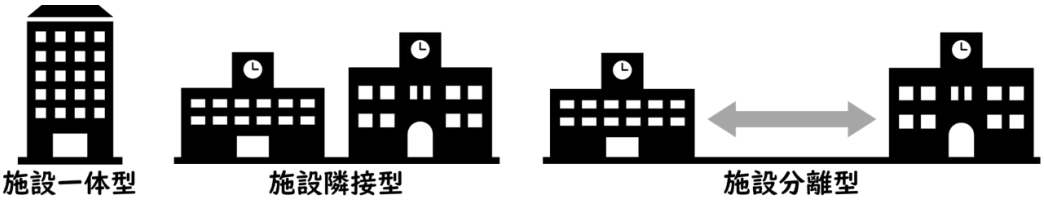
小中一貫型小学校・中学校
・校舎は複数
・修業年数は、小学校6年と
中学校3年の計9年
・校長は各校に1人
・教職員組織は各校に1つ

「**義務教育学校**」とは、従来の小学校と中学校の二つが一つの学校となり、一人の校長、一つの教職員組織から成り立ち、修業年数は9年間になります（例えば、従来の中学校の2年生は、8年生になります）。

一方、「**小中一貫型小学校・中学校**」は、組織上独立した小学校と中学校が一貫した教育を行う形態で、それぞれの学校に校長がおり（校長は一人の場合もあり）、それぞれの学校に教職員組織があります。修業年数は小学校が6年間、中学校が3年間の計9年間です。

なお、南中学校区の小中一貫教育は、「**小中一貫型小学校・中学校**」の形態で行っています。

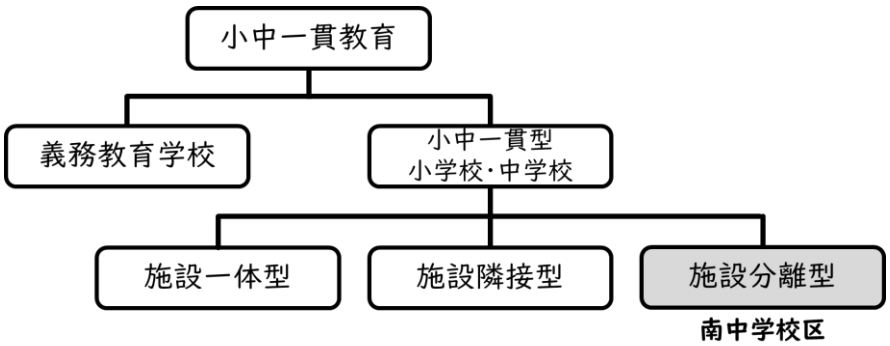
次に、施設から小中一貫教育を見てきます。小中一貫教育は、施設、つまり、校舎がどのように設置されているかで分類することができます。



一つめの「**施設一体型**」は、同じ敷地と校舎の中で小学校1年生から中学校3年生までが生活をします。二つめの「**施設隣接型**」は、隣接した校舎で、小学校の教員が中学校で授業を行ったり、中学生が小学校施設を利用したりするなど、小中学校で乗り入れて教育活動を行います。三つめの「**施設分離型**」は、離れた小中学校で一貫した指導や合同での行事の開催などを行います。

これらの型の中で、南中学校区は、「**施設分離型**」にあたります。一見すると、小中一貫教育には「**施設一体型**」が最も適切に思えますが、これらの型には、それぞれメリットとデメリットがあります。例えば、「**施設分離型**」のメリットとして、「**地域学習や伝統芸能継承など、地域の特色ある教育活動が展開しやすい**」ことが挙げられます。このメリットは、地域の特色や学校規模が異なる、換言すれば、特色をもった学校が集まる南中学校区には、生かしやすいものであると考えます。

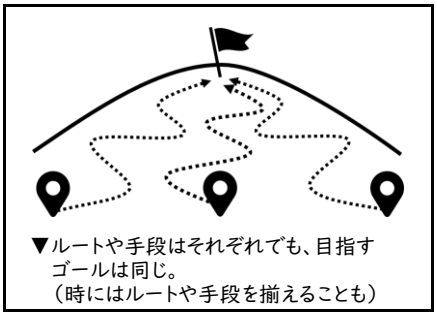
ここまでの説明を図にまとめると、以下のようになります。



なお、冒頭のご質問にお答えすると、現在のところ、南中学校区においては、「**施設一体型**」に移行する計画はございません。

３　南中学校区がめざすもの

学校教育目標　**「切り拓け　たくましく　心ゆたかに」**


▼ルートや手段はそれぞれでも、目指すゴールは同じ。
（時にはルートや手段を揃えることも）

南中学校区では、上記を共通の目標（＝学校教育目標）の達成を目指して、各校または合同での教育活動に取り組んでいます。

先述の通り、南中学校区は、地域の特色や学校規模が異なる、つまり、特色をもった学校が集まる学校区です。そのため、各校における活動だけを見ると、それぞれがそれぞれの目的で活動をしているように見えてしまうかもしれません。しかし、南中学校区内では、上記の目標を共有し、それを達成するために、自校の特色を生かした教育活動を行っています。また、引き渡し訓練や体験授業、教職員の研修など、小小や小中で行った方が目標の達成に近づけるものについては、合同で取り組んでいます。

目標を共有した上で、それぞれの学校の特色を生かすところは生かす、学校同士で協働するところは協働する。そんなメリハリの利いた「**たての接続**」を生かして、学校教育目標の実現を目指しています。